

専攻医
の主張

「小児科の内田です。」

広島市立北部医療センター安佐市民病院 小児科 内田 直幸

「小児科の内田です。今日はどうされましたか？」

患者に向かって初めて小児科医として名乗った日、私は本当にうれしくて、自分の声が少し上ずっていたように思います。小児科医になる、という夢が現実となったことを初めて実感した瞬間でした。私が体調を崩すたび、その都度お世話になったかかりつけの小児科医。常に目線は低く、子どもたちの苦しみだけでなく保護者の不安に寄り添う先生の姿が、医師を志すきっかけとなった原点です。

大学卒業後に初期臨床研修を経て、ようやく小児科専攻医としてスタートを切った私は、憧れの先生と同じく、ついに“小児科医”と名乗る立場になりました。最初は浮き足立った気持ちもありましたが、次第に、初期研修医の時とは明らかに異なる重み“責任”とも呼ぶべきプレッシャーと対峙するようになりました。

まだまだ未熟な私の背後には、経験豊富な上級医や看護師を含めた大変頼りがいのある医療チームの支えがありますが、診察室のその場で

は、子どもや保護者は私に「主治医」としての役割を求めています。そのまなざしには、常に切実な不安や期待が込められています。私が患者であった頃、かかりつけの先生に向けていたまなざしそのものです。

私の言葉一つ、表情一つが子どもたちやご家族の安心につながる。

その重みを感じるたび、自然と背筋が伸びるのです。子どもたちの表情を読み取り、保護者の言葉に耳を傾け、なんとかその気持ちにこたえようとする日々ですが、それは同時に自分の未熟さと向き合う日々でもあります。幸いにも私は、各分野に精通した上級医の先生方の元でご指導を受けられる、とても恵まれた環境にあります。この環境に感謝しながら、目の前にいる子どもたちと真摯に向き合い、信頼される医師を目指して日々精進していきたいと思っています。

今日もまた、私は名乗ります。憧れた姿に、今の自分を少しでも重ねられるように。

「小児科の内田です。今日はどうされましたか？」

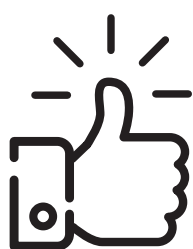
広島県医師会被爆伝承コーナー

「竹内釵特別展」及び「IPPNWの歴史展」開催中

被爆当時の広島赤十字病院の院長であった竹内釵先生の、当時の状況を記録した手帳や手記、絵画、写真など被爆当時の医療現場が分かる竹内釵特別展を開催しております。

また、広島県医師会がIPPNW創設初期から取り組んできた「IPPNWの歴史展」も同時開催しています。

ぜひ、この機会に広島県医師会館にお越しいただき、ご覧ください。



Facebook更新!

もみじ医が広島県医師会などのイベント情報をお知らせします。

・第34回ジュノー記念祭

